

# 親の子どもの進路に対する希望を規定する要因

小林雅之（東京大学大学総合教育研究センター）

## 1. 親の子どもの進路に対する希望

### 1.1. 親の進路希望

本章では、親（保護者）の子どもに対する進路希望を分析する。親は、子どもの進路について、どのような希望を持っているのであろうか。また、親の子どもの進路に対する希望は、どのような要因によって、規定されているのであろうか。

これまで、高校生の進路選択に関して、社会階層や家計所得の影響が調査分析されてきた。先行研究では、進路選択に対して、直接間接に社会階層や学力などの、家計や学生の特性が影響を与えることが明らかにされてきた<sup>1</sup>。しかし、実際には、こうした属性的要因の規定力はきわめて大きいものの、親の教育負担能力や教育アスピレーションなど、進路希望と属性の媒介となる要因が大きな影響を与えているのではないと思われる。つまり、家計所得や親学歴だけでなく「教育熱心家族」が日本の高等教育の高い進学率を支えてきたのではないか。ここでは、こうした家計の教育費負担力やアスピレーションなどの媒介的要因に注目して、親の子どもに対する進路希望とその規定要因を分析する。しかし、ここで注意しなければならないことは、教育アスピレーションも家族特性や学生特性によって影響を受けていることである。また、教育費負担に関しては、第④章で分析する。

第二の視点として、親の子どもの進路に対する希望は、確定的なものではなく、様々な要因によって規定されながら揺れ動く不確定性を持つものと捉えることが重要であろう。これは、規定要因によって一義的に決定されない、ばらつきがあるという面と、時間の経過によって、揺れ動く面がある。ここでは、このうち、前者について検討を試みる。仮説としては、ほとんどの親はできる限り、子どもに進学させたい、さらに短大・専門学校から大学に行かせたいと思っているのではないかと、いうものである。しかし、実際には、経済的制約条件などによって、こうした進路希望は制限されていると考えられる。つまり、進路希望の制約条件は、進学か非進学から、大学か短大・専門学校の選択の所得階層差が問題となっている（accessからchoice）のではないかと、いう点を検証する<sup>2</sup>。

次に、こうした親の進路希望と高校生の実際の決定進路との関連を見ることによって、親の進路希望はどの程度実現したかを検討する。

最後に、以上の分析をまとめ、高等教育政策について政策的インプリケーションを提示する。

### 1.2. 親の進路希望と教育費負担の関連の分析枠組

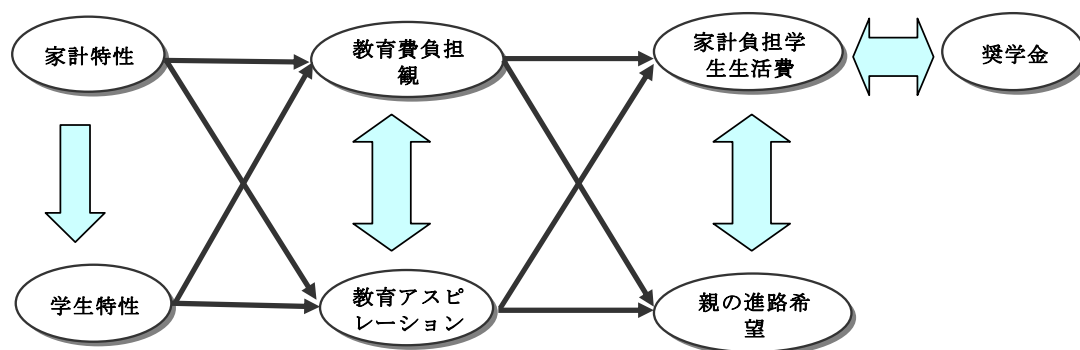
親の子どもの進路に対する希望を分析するために、図1のような分析枠組みを設定する。こ

<sup>1</sup> 高校生の進路選択に関する先行研究については、小林雅之（2007）を参照されたい。

<sup>2</sup> もちろん、積極的に就職を望む親の希望を否定するものではない。この就職を希望する親の分析は別の機会に譲りたい。

ここでは、親の子どもに対する進路希望は、図のように、家計の教育費負担観や教育アスピレーションに影響されるものとして捉える。さらに、ここでは、家計の教育費負担観を、家族構成や家計所得などの家計特性に大きく規定されているものの主観的な要因として捉えることにする。

図 1 親の進路希望の分析枠組



教育費負担観は、家計がどの程度教育費を支出するかを大きく規定している。しかし、実際の教育費支出は、家計の負担能力だけではなく、親の子どもへの教育に対するアスピレーションによっても大きく規定されていると考えることができる。ここで、子どもの教育に対するアスピレーションとは、子どもの教育にかかる親の熱意や、娯楽費など他の支出を減らしても、子どもの教育費を支出しようとする意志を指す。

親の子どもに希望する進路は、子どもの学力によって大きく規定されながらも、この教育費負担力と教育アスピレーションによっても大きく規定されていると考えられる。

このように、親の子どもに希望する進路は、家計が実際に支出すると想定している教育費を通じて、主観的な家計の教育費負担観と教育アスピレーションの2つの要因によって規定されていると考えられる。しかし、こうした教育費負担観や教育アスピレーションも子どもの学力などの特性や、家計所得などの家族の特性によって規定されていることにも注意しなければならない。この分析枠組みでは、親の希望進路はこのように、家計特性や学生特性に直接規定されているとともに、教育費負担観や教育アスピレーションを媒介として、間接的に規定されていると捉えることにする。

### 1.3. 主な変数

家計の教育費負担能力や教育アスピレーションに直接影響を与え、親の第一希望に直接、さらに教育費負担能力や教育アスピレーションによって間接に影響を与える家計特性を想定する。ここでは、所得階層（所得5分位<sup>3</sup>と家計所得）と母学歴を家計特性変数とする。

<sup>3</sup>家計所得に関しては、父所得と母所得から家計所得5分位を作成し、所得階層の指標とした。どちらかが無回答は収入無しとして、両者とも無回答のみ無回答とした。第I分位は家計所得400万円以下、以下、450から600万、650から800万、850から1,000万、1,000万円以上と分位を作成した。なお、それぞ

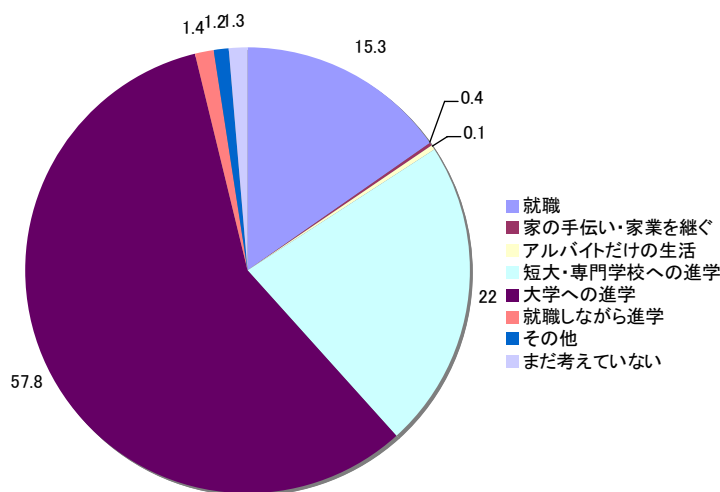
さらに、親の教育観について、アスピレーション指標を作成した。これについては後に説明する。

学生特性として最も重要な変数は、学力である。ここでは、中3成績と高3成績が調査されているが、幾つかの集計の結果から中3成績の方が有意で有意であることが確認された。高校成績があまり有意でないのは、高校間格差のためとみられる。そのため、以下では学力の指標として、中3成績を用いる。

## 2. 親の子どもに対する希望進路

### 2.1. 親の第一希望進路

図 2 親の第一希望進路



(データ)創成科研「保護者調査」2005年11月、以下同じ

にすぎない

親の子どもに最も希望する進路（以下では、「親の第一希望進路」あるいは単に「希望進路」と呼ぶ）は、図2のように、大学進学が58%と最も多く、ついで、短大・専門学校進学が23%であわせて、8割以上が進学を希望している。これに対して、就職を希望している親は15%

### 2.2. 学力との関連

親の進路希望を規定する大きな要因は、子どもの学力である。親の第一希望進路は、子どもの学力による差が大きいと予想されよう。先にも述べたように、以下では、中学3年時の成績の5段階自己評価を学力を示す変数として用いている。図2のように、中3成績と就職と短大・専門学校は成績と負の相関、大学は正の相関を示している。とりわけ、大学進学希望に関して、子どもの成績による差は大きくなっている。しかし、成績が下の場合でも、約3分の1の親は大学進学を希望していることが注目される。

れの割合は17.9, 20.8, 23.7, 18.9, 18.7%で、厳密には5分位ではない。

図 3 中3成績別希望進路

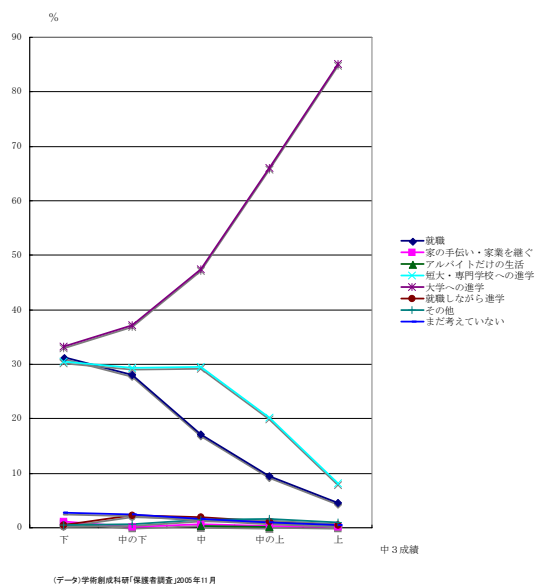
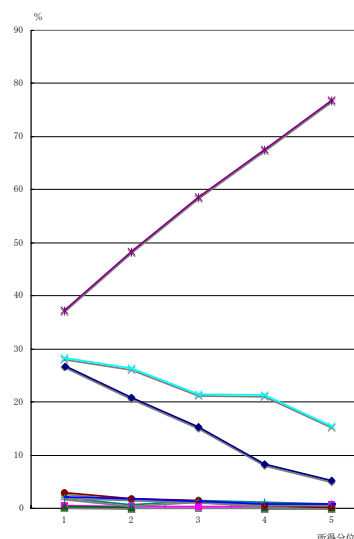


図 4 所得分位別希望進路



このように、親の進学希望はきわめて根強いと見られるけれども、親は子どもの成績を勘案して、子どもの進路に対する希望を決定していることはきわめて明白である。

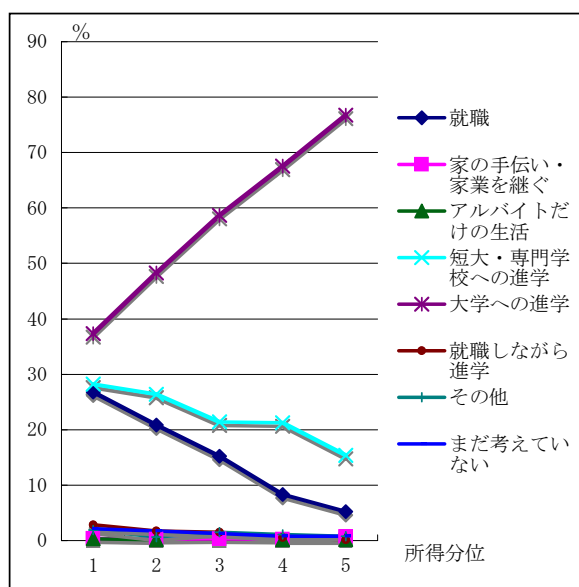
### 2.3. 所得階層との関連

また、第一希望進路は、予想されるように、家計所得分位による差が大きい。図4のように、就職と短大・専門学校は負の相関、大学進学は正の相関がみられる。とりわけ、大学進学と就職の場合には、所得階層による差が大きい。これは成績と同じ傾向である。ただし、短大・専門学校への進学希望の場合には、最も低所得層（第1分位）の方が、進学希望はやや少なくなっている。また、まだ考えていないという進路希望が揺らいでいると見られる親も低所得層ほど多い。これは、ひとつには、教育費負担などの制約条件にもよると見られる。これに対して、国公立希望や自宅通学希望について、所得階層差はほとんどみられないが、医歯薬志望のみ所得階層差がみられる（図表は省略）。

### 2.4. 親の学歴との関連

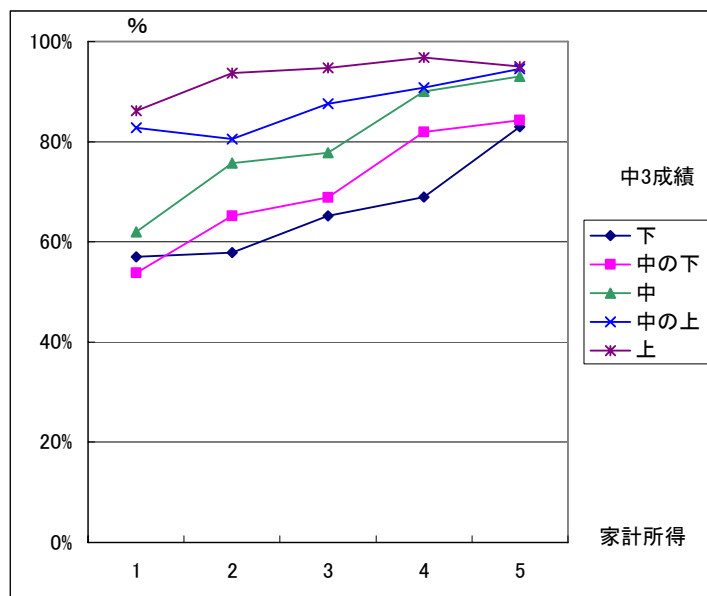
親の進路希望は、親の学歴による差もきわめて大きい。この調査では、父学歴と母学歴をたずねている。図5は母学歴と進路希望の関連をみたものである。学歴が高いほど、大学進学の希望が多くなり、就職希望が減少している。ただし、短大・専門学校進学の場合には、高卒・短大専門学校卒の場合、最も希望が高くなっている。なお、父学歴の場合にも同じような傾向がみられるが、母学歴の方が差は大きい。

図 5 母学歴別進路希望



## 2. 5. 成績別所得分位別希望進路

図 6 所得階層別成績別進学希望の割合

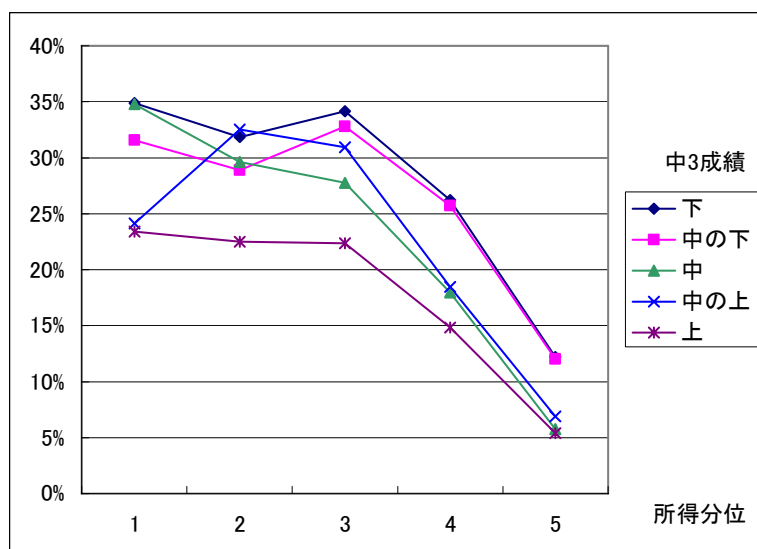


学力と所得が親の希望進路にそれぞれ影響を与えていることが明らかにされたが、これをさらに成績別所得分位別に進学希望を見ると、図6のように、両方の変数が独立して進路希望に影響していることがわかる。

しかし、成績が上位であれば、所得階層に関わりなく8割以上が進学を希望しており、成績上位者では、所得階層の影響は有意ではない。これに対して、成績が低くなるほど、所得階層の

影響は大きくなっている。逆に所得階層別に見ると、高所得層では成績の差はなく、ほとんど進学希望であるのに対して、低所得層では成績によるばらつきが大きい。

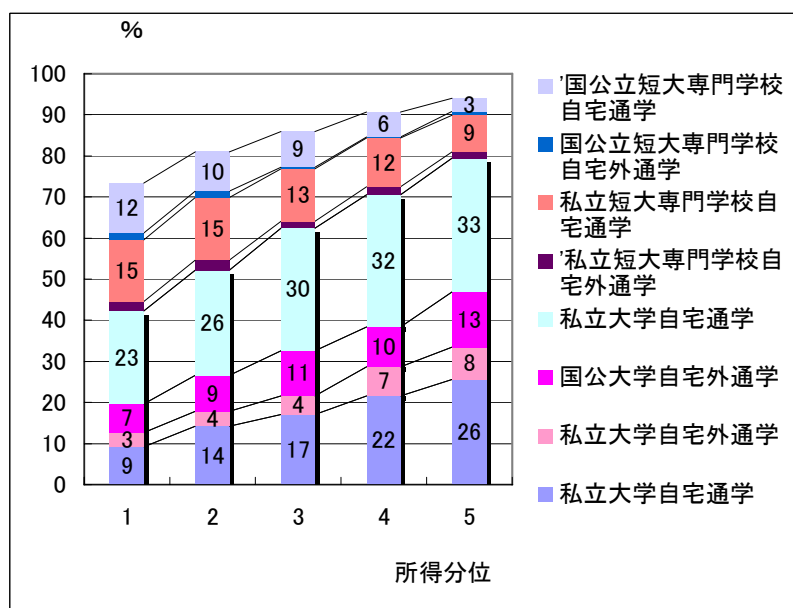
図 7 短大専門学校進学希望



この傾向は進学希望から大学（のみ）進学希望ではさらに明確になる（図は省略）。しかし、短大専門学校進学希望では図7のように逆に所得が高いほど希望が低くなる。また、成績が高いほど希望が低くなっている。高所得層では、成績に関わらず希望は低くなっている。低所得層では進学は困難と考えられるが、進学

希望は高い。費用の少ない短大と専門学校を希望しているとみられる。

図 8 所得分位別親の第一希望進路



低所得層は、さらに費用の低い自宅通学希望を望んでいると考えられる。しかし、自宅通学希望率は、先にふれたように所得差はあまりない。しかし、自宅通学希望は、成績が上では低所得層に多くなっている。また、いずれの階層でも成績差が大きく、成績上位は自宅外が多くなっている。成績下では 88% が自宅を希望しているのに対して、

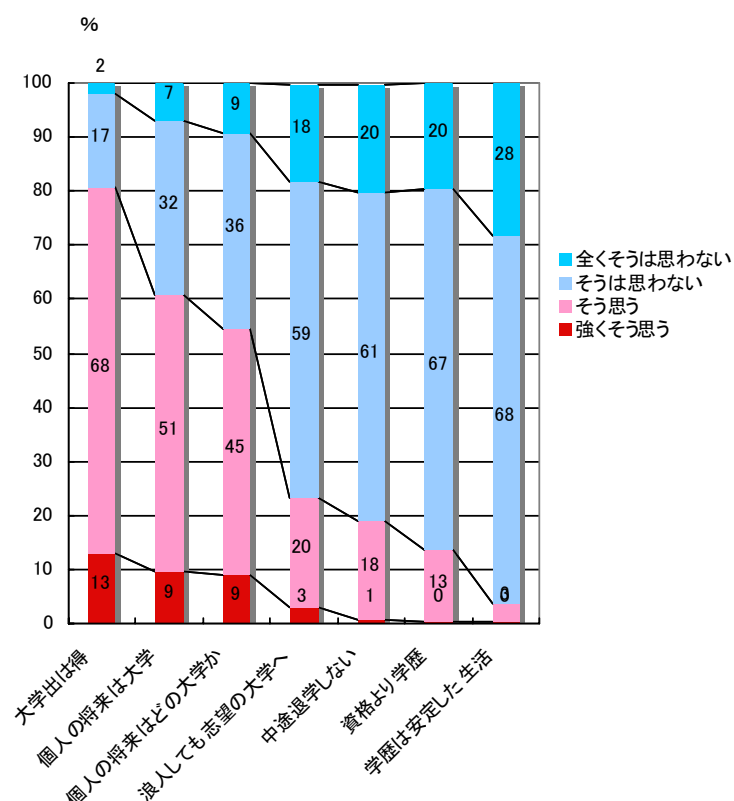
上では 68% と 20% の開きがある。また、成績が下では国公立希望は 37% にすぎないが、上では 73% と約 4 分の 3 となっている。図 7 のように、低所得層でも費用負担の少ない自宅国公立なら何とか進学可能と考えていると言えよう。逆に言えば、所得と成績によって自宅外の進学可能性は制約されている。このように、教育機関の選択だけでなく、居住形態の選択に関しても、所得階層や学力の影響が見られる。

### 3. 教育アスピレーション

#### 3.1. 教育アスピレーションの各質問項目

親の教育アスピレーションそのものは、本調査では、直接測定されていない。父学歴と母学歴あるいは稽古事費用も教育アスピレーションを示す代理変数と考えることができるかもしれない。ここでは、いくつかの質問項目からアスピレーション指標を作成した。ここでは、親の教育アスピレーションを、教育や学歴に価値をおくことと、子どもが教育を継続することを希望することの2つの要因からなるものとして、考える。

図 9 教育アスピレーションの各質問項目



(データ) 創成科研「保護者調査」2005年11月

構成する要因としてみる可以考虑が、肯定的回答は4分の1以下となっている。さらに「資格より学歴」や「学歴は安定した生活を保障」(元の質問は逆)は、最も肯定的な回答が少ない。

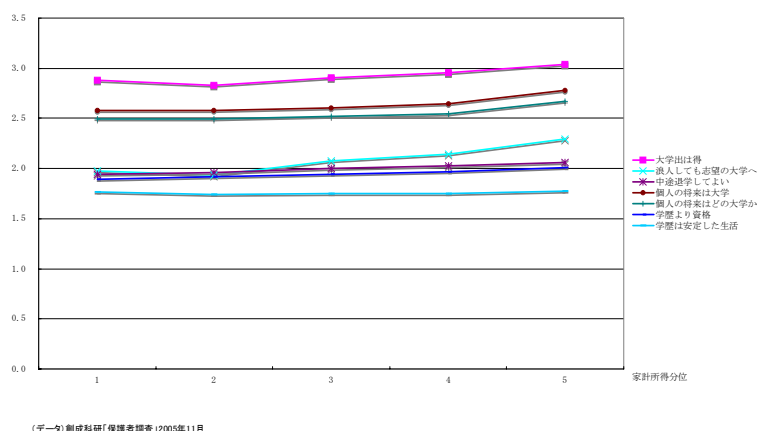
まず、親が教育や学歴に対する価値を持っているかについては、表の5つの質問項目で測定した<sup>4</sup>。図9のように、最も高いのは、「大学出は得」という意見で約8割の親が肯定的である<sup>5</sup>。ついで「個人の将来は大学の出たか」と、大卒の価値を認めるものが多い。子どもの将来にとって、大学出あるいはどこの大学出が重要だと考えている親が半数を越えている。また「浪人しても志望の大学に入学してほしい」と「中途退学しない」<sup>6</sup>ということも教育の継続への期待として、親の教育アスピレーションを

<sup>4</sup>ただし、比較のために、元の質問の選択肢を教育アスピレーションの強さの順に逆にして、質問文も逆になっているものがある。

<sup>5</sup>この質問は先に説明した元の質問と逆になっているものである。

<sup>6</sup>元の質問は逆に「中途退学してよい」となっている。

図 10 所得分位別教育アスピレーションの各質問項目の平均スコア



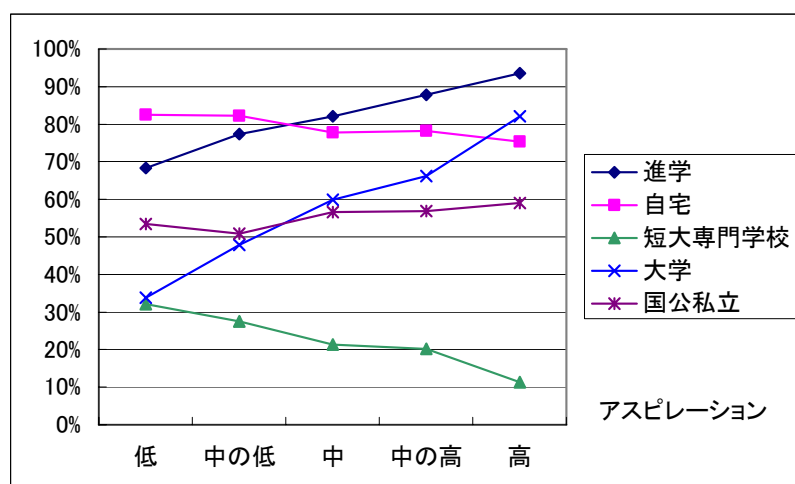
も、その差はそれほど大きくないことが注目される。

これに対して、親の教育アスピレーションは親の学歴による差が大きい。これも予想される結果である。また、学歴別所得階層別では、高学歴者は、高所得層ほど教育アスピレーションが高くなっている<sup>7</sup>。

### 3.2. 教育アスピレーション指標

上記の 7 つの質問項目からアスピレーション指標を作成した。指標は、強く思う＝4，そう思う＝3，そうは思わない＝2，全くそうは思わない＝1 とし、単純に合計した<sup>8</sup>。さらに、アスピレーション指標をスコアによって、5段階に分けた。

図 11 アスピレーション別進路希望





このアスピレーション指標別に見た進路希望は図 11 のように、進学、特に大学進学はアスピレーションの高いほど強くなっている。これに対して、短大専門学校進学希望は、アスピレーションが強いほど弱くなっている。また、国公立大学進学や自宅通学に関しては、アスピレーションによる差が見られないことが注目される。

さらに、これを所得階層別にみると、図 12 のように、高所得層では親のアスピレーションに関わりなく進学希望であるのに対して、低所得層ではアスピレーションによる差が大きいことである。逆にアスピレーションが高い親は所得に関連せず進学希望している。低所得層でも 8 割以上が進学希望となっている。このように、アスピレーションは進学希望に強い影響を与えており、所得階層の影響はみられるものの、これを弱めていることが注目される。

図 12 所得階層別アスピレーション別進学希望

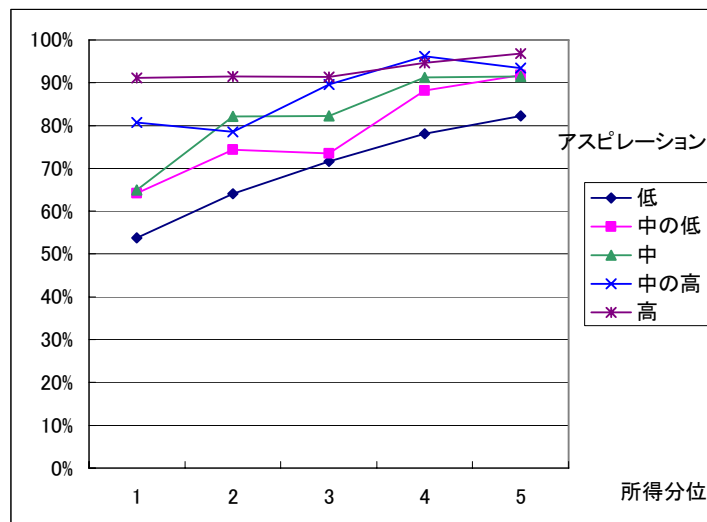
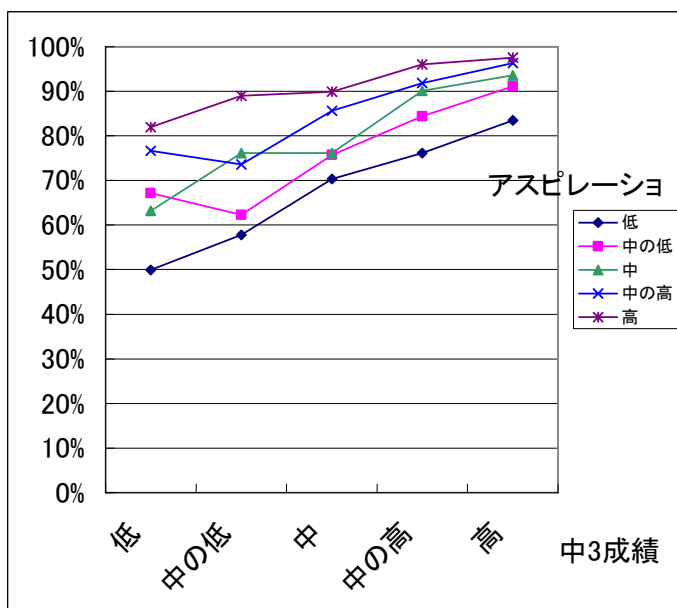


図 13 成績別アスピレーション別進学希望



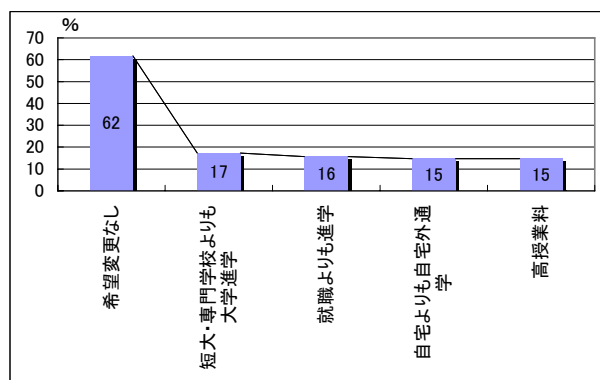
これに対して、成績別所得階層別にみると、図 14 のように、高アスピレーションの親は成績にあまり関係なく低成績でも 8 割以上が進学希望している。これは、所得階層別の場合と同じ傾向である。また、短大専門学校進学希望では、教育アスピレーションが低いほど進学を希望しているが、成績別アスピレーション別にも同じような傾向がみられる（図は省略）。

#### 4. 揺れる親の進路希望

ここまでみてきたように、教育アスピレーションには所得階層差がみられるがその差は小さい。とりわけ、高いアスピレーションをもつ親の場合には、成績や所得階層に関わりなく、進学希望が強くなっていることが注目される。

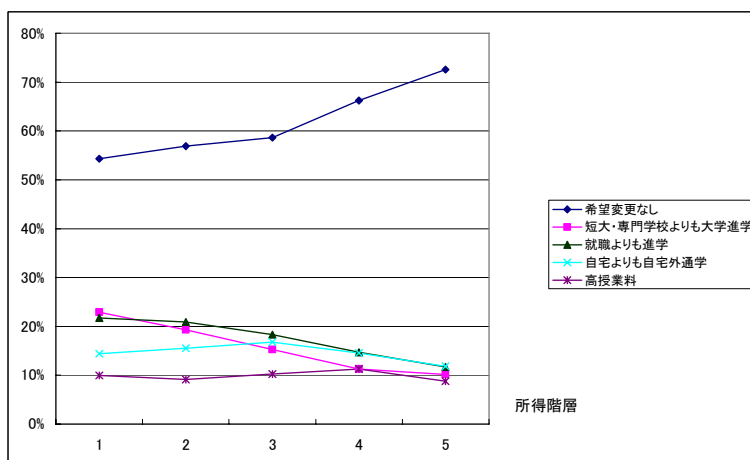
他方、第⑩章で分析するように、教育費の負担も親の進路希望に大きな影響を与えている。このため、進路希望にあたって多くの親は、経済的条件を考慮せざるをえない。このことは、経済的制約がなければ、親は進学を希望するのではないかと推測しても、それほど無理がないと考えられる。ここでは、こうした親の進路希望の揺らぎを「経済的ゆとりがあれば」という条件で、進路の変更をたずねた。

図 14 経済的ゆとりがあれば、希望の変更



所得分位別には、図のように、就職より進学を希望するものが、第V分位で10%であるのに対して、第I分位で23%と倍近くなっている。短大・専門学校より大学も第V分位で12%に対して、第I分位で22%と倍に近く、所得階層と負の相関がみられる。しかし、ゆとりがあれば、高授業料の大学や自宅より自宅外通学を希望する率には所得階層差がみられない。これらは、アクセスと言うより選択の相違であり、親の場合に所得階層差がみられないことは注目される<sup>9</sup>。

図 15 所得階層別希望の変更



なお、これらの質問は多重回答のため、希望あり層は重複している。表1のように、「就職より進学」とともに「短大・専門学校より大学」を望む親は、どちらかを望む親と同じくらい存在している。

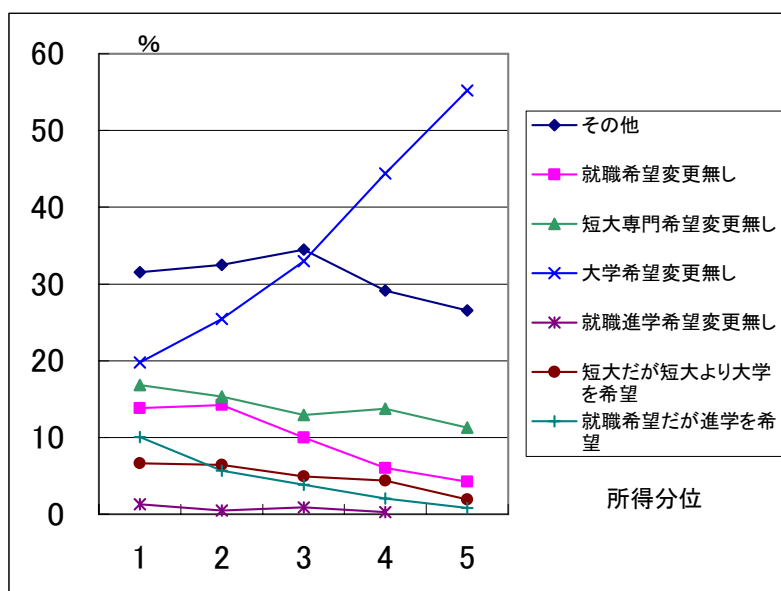
<sup>9</sup> 成績別でも同じような傾向がみられるがアスピレーションとは有意な関連がない。

表 1 経済的ゆとりがあれば、「就職より進学」と「短大・専門学校より大学」の割合

		短専より大学		
		off	on	
就職より進学	off	75.35	9	84.35
	on	7.25	8.4	15.65
合計		82.6	17.4	100

また、第一希望と変更の希望を所得階層別にさらに詳細にみると、図 16 のように、大学希望で変更がないのは、所得階層が高いほど多いのに対して、その他の変更なしと「就職が第一希望だが進学を希望」と「短大が第一希望だが大学進学を希望」とは、いずれも低所得層ほど多いという明確な関連がみられる。低所得層ほど、条件が許せば、進路を変更したいと考えていると言えよう。

図 16 第一希望別所得階層別進路希望の変更



これに関連して、経済的にゆとりがあれば、他の進路に変更してあげたいと考える親は、決定進路が就職者に多い。就職者の 26.4%の親は就職よりも進学させたいと考えている。また、家事手伝いやフリーターの場合でも 3 割以上の親は進学させたいと考えている<sup>10</sup>。

これらのケースは、経済的な制約によって進学が阻まれていると考えられる。また、進学者の場合でも、短大進学者の親の 3 割、専門学校進学者の親の約 2 割が経済的ゆとりがあれば大学へ進学させたいと考えている。短大や専門学校に進学はできたものの大学へ進学させたいという親の希望が経済的な要因のため、実現されなかったと考えられる。

<sup>10</sup>なお、現在より経済的ゆとりがあれば、子どもに選択させたい進路に必要な金額（問 12、月額）については、所得階層差は見られない。

ただし、先にもふれたように、経済的ゆとりがあれば、自宅外通学をさせたいという親は、自宅通学者と自宅外通学者とも約6分の1で差はない。しかし、進路が国公立大学自宅通学に決定した親の24.7%、国公立短大・専門学校自宅通学に決定した親の33.3%が、高校3年の秋の時点では、自宅外通学をさせたいとしており、経済的制約から国公立の自宅通学を選択せざるを得なかったと見られることは注目される。

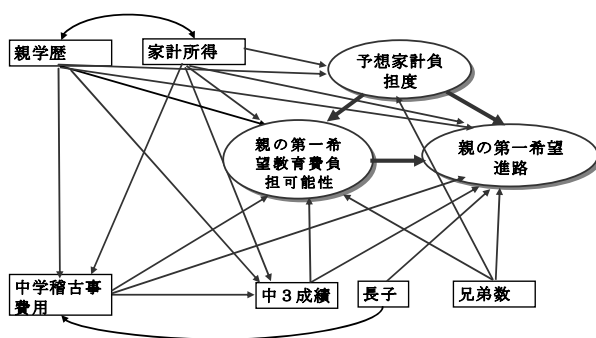
## 5. 進路希望と実際の進路

親の進路希望は、どの程度実現されたのであろうか。3月の決定進路が希望進路と一致している者の比率を希望実現率として算出した。これをみると、進学76%、大学69%、短大専門学校69%で、いずれも約7割となっており大きな差はない。また、これらの実現率はいずれも、所得階層差や成績差はみられない。父学歴別にやや差があり、高学歴ほど実現率は高くなっている。しかし、教育アスピレーション等とも関連は見られない。全体としては、実現率に差は少なくなっていると言えよう。

## 6. 第一希望のパス解析

親の進路希望に影響を与える様々な要因を検討してきた。最後に、これらの相互の要因が全体としてどのように関連しているかを分析するためにパス解析を行った。このパス解析では、ここまで分析してきた変数に加えて、長子、兄弟数、中学稽古事費用など、家族の特性を分析に加えた。

図 17 第一希望のパス解析



(注)他の説明変数は、性別、共働き、父年齢  
 性別は親の第一希望進路に有意な影響  
 共働きは親の第一希望進路教育費負担可能性に有意な影響  
 親学歴は父学歴と母学歴の2つの説明変数であるが、図ではひとつにまとめた。  
 有意なパスが等しいため(母学歴の中3稽古事費用を除く)  
 線の太さは強調のため、係数の大きさとは関係がない。  
 $\chi^2$  自乗=874.1  
 自由度=35  
 有意確率=.000

パス解析の結果から特徴的なことは以下の通りである。

- ・親の第一希望進路教育費負担可能性は親の第一希望進路に直接関連していない。
- ・予想家計負担度は、親の第一希望負担度や親の第一希望進路に直接関連している。
- ・長子は負担可能性に関連していないが、第一希望に関連している
- ・兄弟数は負担可能性と第一希望の両者に影響している

## 7. まとめ

### 7.1. 親の進路希望とその規定要因

- 親の強い子どもの進学への希望。全体で8割近くが進学希望。成績上位では所得階層に関係なく8割以上。低所得層で低成績でも半数が進学を希望。
- 学生の成績や、家族特性、所得や親学歴などによる差が大きい<sup>11</sup>。
- しかし、希望は客観的条件に左右されながらも、親の教育に対するアスピレーションや自立期待など考え方による差も大きい。教育観は所得階層などにより相違が見られるが、その差は進路希望に比べれば、小さい<sup>12</sup>。
- アスピレーションの低い低所得層でも約4割が進学を希望。根強い進学希望がみられる。
- 進学／非進学の差も属性や親の考え方の差によるところが大きい。大学と短大・専門学校の差も非常に大きい。アスピレーションの低い親ほど短大や専門学校を希望している。

### 7.2. 揺れる親の進路希望

- 進学を望まない積極的な理由があるという仮説は、進学を望まない積極的な理由が調査されていないため、この調査では明らかになっていない。就職を希望する親については、教育や学歴に価値を認めない傾向や自立を望む傾向があるが、あるいは他の積極的な要因がある可能性がある。

### 7.3. 今後の検討課題

進学を望まない親の希望はどのような要因によるのか、経済的要因だけか、についても検討する必要がある。

家族特性と親の第一希望進路に関して、単純に学齢子ども数は希望進路に対して、ほとんど有意な差はみられない。子ども数と所得の相関がきわめて強いとみられる。さらに分析が必要である。

## 8. 政策的インプリケーション

きわめて多くの親が進学を希望している。しかも条件さえ許せば進学さらに短大や専門学校より大学に進学を希望しているという根強い進学願望がある。しかし、低所得層の場合には、無理する家計やアルバイト過多学生に陥るおそれ強い。所得格差が拡大すればさらにこの問題は深刻になる恐れがある。この問題に対する政策的対応が必要であろう。

---

<sup>11</sup> 兄弟順位による差も見られる。

<sup>12</sup> ただし、学歴による差は大きい。

## 9. 附表

	家計所得	父学歴3段	母学歴3段	中3成績	兄弟順位	アスピレー	自立指標	家庭の経済
家計所得	1.000	0.288	0.282	0.137	0.072	0.179	-0.260	-0.246
父学歴3段階	0.288	1.000	0.461	0.176	-0.024	0.185	-0.302	-0.094
母学歴3段階	0.282	0.461	1.000	0.152	-0.008	0.160	-0.271	-0.061
中3成績	0.137	0.176	0.152	1.000	-0.092	0.211	-0.254	-0.027
兄弟順位	0.072	-0.024	-0.008	-0.092	1.000	-0.006	0.043	-0.024
アスピレーション	0.179	0.185	0.160	0.211	-0.006	1.000	-0.267	-0.063
自立指標	-0.260	-0.302	-0.271	-0.254	0.043	-0.267	1.000	0.291
家庭の経済考慮指標	-0.246	-0.094	-0.061	-0.027	-0.024	-0.063	0.291	1.000